

トップメッセージ

自然の恵みを大切に、
安全・安心な
商品やサービスの提供を通じて
社会に貢献します。

宝酒造では、穀物や水、微生物など自然の恩恵を受けて酒類や調味料、酒精といった幅広い事業を展開しています。このため、豊かな自然環境が保たれることは、当社が存続するうえで重要な要素であると考えています。一方、宝酒造の商品には、ガラスびんやPETボトル、紙パック、アルミ缶などの容器を使用しています。商品が消費された後に発生するこれらの空容器は、社会に大きな環境負荷を与えています。そのような理由から当社は、「自然保護」と「空容器問題」への取り組みを環境活動の2本柱と位置付けてきました。

当社の「自然保護」への取り組みは、サケを川に戻す市民運動を支援した1979(昭和54)年のカムバック・サーモン・キャンペーンに始まり、企業の自然保護活動支援の先駆けとなりました。その後も、1985(昭和60)年に公益信託タカラ・ハーモニストファンドを設立し、30年以上にわたり継続的に自然保護活動・研究を支援するなど、さまざまな「自然保護」への取り組みを行っています。また、2004(平成16)年開校の宝酒造「田んぼの学校」では、次世代を担う子どもたちに、自然の恵みの大切さや命のつながりを学んでもらう環境教育活動を行っています。

一方、当社が事業を展開するうえで避けて通れない「空容器問題」については、一般的なりデュース、リユース、リサイクルの3Rに、発生そのものを回避するリフューズを加えた4Rの考え方を取り入れています。この考え方のもと、容器の軽量化や、一升びんのリユースシステムの利用、リサイクルしやすい容器の採用といった取り組みに加えて、商品の中身だけをご購入いただく焼酎のはかり売りを展開するなど、環境配慮型商品の開発にも積極的に取り組んでいます。

こうした環境活動に加えて、当社が大切にしているのは、お客様に安全・安心な商品やサービスを提供することです。お客様に「安心」をお届けするためには、「安全」を幾重にも積み重ねていかなければならないという考え方のもと、品質管理には常に万全を期しています。その一環として、2016年度までに国内全6工場において、食品安全に関する最も厳格な国際規格のひとつである食品安全マネジメントの国際規格FSSC22000の認証を取得しました。

この緑字企業報告書は、環境に関する取り組みや、安全・安心な品質への取り組みに加え、社会貢献活動や労働環境整備の取り組みなど、さまざまなステークホルダーの「いきいき」を実現するための当社の取り組みをご紹介したCSR報告書です。また、特集ページでは、お米の恵みから生まれた、日本の食文化を支える本みりんをテーマに、「タカラ本みりん」の歴史やおいしさの秘密についてご紹介しています。

当社は、自然の恵みを大切に、技術に裏付けられた安全・安心な商品やサービスをお届けし、人々の暮らしを豊かなものにしていくことで社会に貢献してまいりたいと考えています。

この報告書によって、当社の考え方と活動をご理解いただき、ご意見を承ることができれば幸いです。

宝酒造株式会社
取締役社長 村田 謙二

